

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100552		
法人名	社会福祉法人 白富会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園		
所在地	熊本県熊本市長嶺東3丁目3-70		
自己評価作成日	2010/10/07	評価結果市町村受理日	平成22年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成22年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ホームの近くに小学校もあり、登下校時や運動場での活動時に児童の声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。毎月、入居者お一人々のホームでの生活を「ひまわり通信」にてご家族へ安心をお伝えしています。家庭菜園もあり、好きな方は楽しむことが出来、収穫のときにはみんなで喜びあって季節の食べ物を食しあっています。職員の元気も大切にしながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来るように努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熊本市東部の住宅地に位置するホームは、開所三年目を迎え地域密着型事業所として年々地域や地元住民の信頼が得られ、法人主催の夏祭りや、一階のホールを提供しての介護教室・ジュニアボランティア・専門学校生の研修受け入れなど交流も盛んになってきている。ホーム管理者は、一階の多機能事業所も併せ統括しており、地域密着型としての役割を十分認識し、お互い切磋琢磨しながら入居者・家族の思いに応えるケアに尽力している。今年度は法人の大型車を利用した季節の外出支援にも力を入れ、家族の参加・協力も得られ入居者の喜びに繋がっており、外出後は早めの写真掲示により思いを共有している。今後も地域に向けた情報発信によりホームにできる貢献に努め信頼が深まることが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「スマイルライフ」を本年度の職員理念に掲げ、運営理念を基本に日々取り組んでいます。	入居者と職員が一つ屋根の下で明るく笑いながら過ごすことを「スマイルライフ」の言葉に込め、一階のホールや二階ホームの厨房内に掲示し意識づけを図りながら共通認識に向けた努力を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	託麻・長嶺校区の集まり「一日会」への参加をし、自治会の方々や、事業所との交流をしています。	地域交流の柱である「一日会」を継続しながら、本年度は、地元の人々を招き、一階ホールを提供し地域包括主催の「家族介護教室」を開催している。法人主催の夏まつりでは、ちらしを近隣へ配布し盛大に行われた事が写真や記録から確認できた。ジュニアボランティアの車いす体験を支援したり、お話や理容ボランティアなどの訪問、各専門学校生の受け入れ等、地域での役割を拡充している。	地域交流に向けた取り組みも年々多彩になっており、情報の発信手段としてホーム前にコミュニティーボードを設置すりことで、ホームの取り組みや行事案内、協力の呼びかけ等大いに活用できるものと期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学やボランティア活動として施設にいられた方に対し認知症の説明は行っていますが、それ以外では現在はやっていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度での問題点等を会議の場で検討しアドバイスを受けています。	会議は一階の多機能ホームと合同で開催され、活動報告や前回の会議であがった課題点についての取り組み状況を報告している。議事録を玄関に設置し家族や来訪者がいつでも見れる状態にしている。又、市の担当者へ送付し報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な時のみ連絡を行っています。	市への提出書類について、支持を仰いだり、事故があった際もその都度報告を行い、必要に応じ足を運び協力関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議で、身体拘束禁止を前提での話し合いを行っています。	身体拘束の是非を全職員が認識し、勉強会の中でどの行為が拘束にあたるか管理者はスピーチロックを含め話をし共有に努めている。危険防止の為、やむを得ずセンサーを使用している入居者家族とは事前に話し合いを重ね、使用に至っている。	今後もセンサーの使用継続に当たっては、家族への経過報告が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議内で虐待についての勉強会を行い、虐待防止についての認識を深めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部より講師を招き、勉強会を実施しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書、重要事項説明書、運営規定を読み合わせ、同意して頂いた後に記名と捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見は箱を人通りの少ない場所に設置しており、記入して頂いた内容はスタッフに伝え、改善出来ることは対応しています。	意見箱を設置し家族の要望や思いを受け止めている。出された内容を職員で共有し、改善できる事は早急に取り組んでいる。家族の提案で外出を企画し、動物園へ出掛けている。	管理者は家族同士が交流する機会を更に広げ、意見の収集に努めたいとしており、家族とホームの信頼関係の構築に繋がることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議にて、検討会や意見の収集を行っています。	毎月の会議で職員は意見や要望を述べあい、掃除用具や室温計など備品の購入に繋がっている。又、車イスのまま体重が測定できる機器の購入を他の施設より意見を聞いたリ、職員に必要な是非についてアンケートを実施し現在検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の見直しを行ったり、介護職員改善交付金を取り入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員を設け、その委員を中心に定期的な勉強会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネクラブ等からの案内を受け、個々の勉強会に参加をしたり、その際に交流の場としての利用もしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言動や行動に注意をはらい、不安の除去に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には、生活状況、健康状態を伝え、必要な支援や相談を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を傾聴し、ご利用者様中心の支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物を干したり、食事の準備や後片付けを行っています。時にはおやつ作りも一緒に行っています。又、ご利用者様の誕生日には、他のご利用者様と一緒にケーキを作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状況をその都度家族に伝え、情報の共有を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の習い事での友人等が来園された際には、写真を一緒に撮り、その頃の思い出話をしたり、アルバムを開き、ご利用者からの話を傾聴しています。	入居者の知人や教え子の来園を支援し、外部からの理容ボランティアの存在も入居者に顔馴染みの関係になっている。家族の入院先への面会や墓参に同行するなどなホームでできる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の特技を活かし、その都度中心となる方が変わり、参加の意向を聞きながら時には個別で行い、時には全員参加でレクやゲームを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	月に1回、ひまわり通信を家族へ発行しており、施設での様子を写真で伝えるほか、必要時にはその都度連絡を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者や家族の意向を取り入れ、ケアプランの作成を行っています。	職員は日々の関わりから入居者の意向をくみ取っている。又、毎月来園される支援相談員よりもたらされる入居者の思いを大切に介護プランにも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族等との会話から、情報を得ようと努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、カンファレンス等を行い、その方自身の情報を各スタッフで共有する様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況を把握し、必要なケアを立案しています。	入居者を職員の担当制とし、職員からの声や本人・家族の思いがプラン作りに活かされている。担当者会議には本人・家族・主任(看護師)等が参加し様々の情報をもとに計画作成担当者が立案、6ヶ月を期限として必要時その都度修正している。家族への説明も十分に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様個別に日々の記録を行うと共に、簡素化した文章ではなく、伝わりやすい記録に表現に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご家族の急な申し出や受診対応等柔軟に行う様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時にはご利用者様と一緒に食材の買い物に出掛ける時もあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご利用者様とで病院受診される際には、必要に応じ、前もって情報提供書の作成を行い、受診時に持参して頂いています。	入居時にこれまでのかかりつけ医の受診で良い事を説明している。協力医をかかりつけ医としている入居者は、月2回の往診を支援し、協力医以外はホームより情報提供書を作成し家族対応の受診としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援できています。申し送り後にショートカンファレンスを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を行い、その際に担当Nsとの情報交換を行っています。退院の際には、他の関係部署(例:リハビリや栄養課)等からの情報交換や相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、実施していません。	重度化に対してのホームの指針も作成されており、ホームとしての対応について入居時に家族に説明を行い同意を得ている。現在は終末期の取り組みは実施していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ勉強会でテーマとして取り入れています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練や、非常時の電話連絡訓練を行っています。	有事に備え居室入り口に“非常時確認表”を掲示している。先般、非常時伝達訓練と消防署に依頼し一階の小規模多機能事業所と合同でAED蘇生法の研修会を実施している。今年度の総合訓練が近日中に計画されている。	今後は火災以外の訓練の実施や備蓄の準備、訓練へ地域の方の参加・協力を依頼したり、業務日誌の中に最終火元確認の項目を追加することで、安全への意識が深まると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各スタッフはご利用者様がお元気な頃の仕事やその時の地位、立場等を把握しており、その方にあった言葉かけを行う様に対応しています。	プライバシーに配慮したケアについては職員間で事例をあげ共有に努めている。入室時のノックや尊厳に配慮したトイレ誘導・介助の場面も確認された。又、ボランティア受け入れ時も注意事項を記した文書を渡している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各スタッフはご利用者様に日々対応する中で、本人の意向を確認しながら対応する様心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はあるが、その時の気分やペースを尊重しながら支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日一緒に着る服をコーディネートしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付等を手伝って頂いたり、片付けの時には食器の拭きとりを一緒にやっています。	入居者の希望や出来る作業(菜園の管理・収穫・味見・つぎ分け等)を職員と一緒にやっている。行事食は松花堂弁当として盛り付けられ好評を得ている。	入居者と同じメニューをケアにあたる職員が味や量の確認も兼ねて食したり、ホームの取り組み(農家よりつきたての米をその都度注文など)も盛り込んだ、わかりやすい献立表を作成し、家族にも報告するなど入居者に関わる全ての人々の共有に繋がることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を確認しており、飲み物に関しては、ご本人の飲みたい物を聞いて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、入れ歯の方は週2回ポリドントに浸ける様になっています。又、磨き残しがある場合は介助にて対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を利用し、定時誘導やその時の状況に応じて誘導と付き添いを行っています。	自立での排泄や個々に応じた声掛けや誘導により支援している。三か所のトイレは広く清潔に保たれ、ゆっくりとしたつくりになっている。夜間もトイレやポータブルなどそれぞれに応じた支援であり、使用したポータブルトイレは、毎朝洗浄し天日による乾燥を行い気持ちよい排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操や運動を行う外、食物繊維の多い食品や、十分な水分摂取が取れる様に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中ではありますが、その都度ご利用者様の意向を伺い対応しています。	入居者の意向や同性介助への希望にも対応し、利用ごとに湯を入れ替え、清潔でゆったりとした支援に努めている。拒否の方へもタイミングや誘導により少なくとも週二回の支援を実施している。必要に応じたシャワー浴や夏場は庭での水足浴など季節に対応した支援が実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のご利用者様の決定にて入眠を促したり、その日眠くない時は一緒に話しながらテレビを見たりし、落ち着かれるまで一緒に過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬リストを掲示し、薬の服薬目的や副作用について各スタッフが理解出来る様に工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での野菜の収穫やご利用者様の特技をいかした対応やアドバイスを受け、一緒に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事を取り入れる中で、施設外での企画も行い、その際に家族への参加も声かけを行っています。	ホームが建物の二階にあるため、外出に困難な点もあるが、天気の良い日は敷地内の散歩や希望や特技を取り入れ、菜園の管理や収穫など個々に応じ支援している。家族の参加や協力により阿蘇や動物園などの外出支援の様子が写真や記録より確認された。	天候や入居者の状態に左右される外出を全員そろって実施することは、困難な面も多い事から、家族やボランティアなどの協力により個別支援で機会を計画されることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は困難な方ばかりなので、施設にて管理しており、本人と買い物に行く時はそのお金で本人にて支払いをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により、家族に連絡出来る様、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高いため圧迫感がなく、ベランダは南向きで開放感があります。近くには小学校もあり、元気な子ども達の声が聞こえる環境です。施設の畑もあり、畑作業が好きな方は水やりや草取り、収穫の作業をされています。	開放感のあるリビングホールには、直近の外出時の写真の掲示や観葉植物、寛ぎながらテレビを見れるソファや畳スペースが設けられている。浴室・トイレをはじめ共用空間は清潔を心掛け、二か所の室温計設置によりホーム全体の空調管理に配慮している。	定期的な掲示物や張り紙の確認・見直しにより季節感に繋がる空間作りに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に畳の場所やソファを設置しベランダにはベンチを置いて好きな場所が利用出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、タンス、写真等自宅にあったなじみの物を自由に持ち込んで安心出来る環境の整備をさせて頂いている。	採光や広さも十分な居室は、入り口にそれぞれ担当者によって工夫された入居者名や飾りが施されている。必要に応じ整理タンスや小物・ソファの持ち込みやベッドの位置など家族と一緒に検討し、居心地や安全面に配慮した居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、通路、浴室等に手すりを設置し、畳の場所以外はすべてバリアフリーになっています。		